

会員特別座談会

老後設計、まっただ中！

— 自分が望む老後の暮らし —

7月27日、これから「住み替え」を考えられている会員さん（秋山精治さん、好子さんご夫婦・小野俊彦さん・金田栄子さん）4人と、当センターの理事池辺史生と池田敏史子が加わり「自分が望む老後の暮らし」について座談会を実施いたしました。

皆さん「住み替え」の目的は「介護」ですが、そのタイミングが共通の悩み。また、当てがいぶちの「住まい」ではなく、住まい手が主役のコーポラティブ住宅に話題が移ったときには、ぜひ実現したいと話が盛り上がりました。金田さんからは、長い老後人生において、「その時々に見合った住まいの選択が必要であり、住み替えも多様になってくるのではないか」といった、これまでにない暮らし方の提案もあり、示唆に富んだ貴重な意見が交わされました。これを機会に今後も会員さんの「声」を受け止める場を多く設けて行きたいと思いました。



池辺 今日皆さんと一緒に、「老後の暮らし」について、どのように考えられているのか伺いたいと、楽しみにしています。

私の父は75歳の時からアルツハイマーでボケはじめ、母親はパーキンソン病を患い歩けなくなりました。兄弟6人とその配偶者で七転八倒の思いで在宅介護を10年以上行ってきたので、自分たちは子供に世話をかけまいと思っています。仕事上さまざまな施設の取材に行きましたが、最近は住まいも多様化していますね。

— 先ず、「住み替え」を考え始めたきっかけについて伺います。

小野 私は30年前に妻を亡くし、一人娘は北海道に嫁いでいるので、自分のことは自分で考えなくてはいけないと思っています。実は、有料老人ホームの契約寸前までいったけど、見送りしました。その理由は、今現在自宅で不自由がなく、快適に暮らしているので、多少とも犠牲を伴う施設の暮らしを先延ばしにしたい思



池辺 史生 さん (66 歳)

自分の両親、妻の親と10年以上の在宅介護の経験を持つ元編集者。退職後、民生委員を務めながら妻と長男の三人暮らし。



小野 俊彦 さん (74 歳)

早くに奥さんを亡くし、戸建住宅で一人暮らし。弟が近所に暮らし、一人娘が北海道に嫁いでいる。



金田 栄子 さん (64 歳)

40代のときに離婚を経験し、賃貸マンションで一人暮らし。息子・娘の二人の子供がいる。



秋山 精治 さん (69 歳)

夫婦二人で戸建住宅に暮らす。娘が二人それぞれ嫁に行き、夫婦での老後の暮らしを模索中。



秋山 好子 さん (66 歳)

自分が倒れても夫が大丈夫なように、早めの住み替えを検討中。様々な施設を見学し、老後の生活に備える。

いが強かったからです。

**秋山 (夫)** 私の場合、単身赴任をしたことがあるものの、手料理とか家事はまったくしません。でも、同じ会社の先輩が、奥さんを亡くして急に体調を悪くしたりするのを間近でみてきて、定年後(65歳)は妻にせつつかれながらも、万一妻が倒れても娘や近所に頼らなくていいように、収入と資産をみながら自分の身の丈にあった有料老人ホームを色々見て、今から準備しています。いくつか見学するうちに、「ここなら」という目

星もついてきました。

**秋山 (妻)** 女ひとりが残るならなんとかありますが、自分が先に倒れたとき、主人の面倒を誰が見てくれるのか心配でしたからね。娘や近所には頼りたくないのですが、夫の退職後から覚悟を決めるように説得し、あちこち見て回っています。私自身も食事を作るのが面倒になってきたし、それも大きな動機です。常備菜を作っておいても、毎日同じものを食べることになり、飽きてくるしね。

**金田** 私は40代後半に家庭をリセットし、一人で歩む人生を選択しました。その時から自分のアイデンティティーを求め続け、その時々にあつた住まいを選択してきたつもり。今後自分なりの人生を送るのにどのような環境があるのか、少しずつ知識を取り込んでいくところですよ。現在住んでいるマンションは駅からも近くて、生活しやすいけど、防犯上の心配もあります。だから現時点では先ずその安心が得られることが、当面の住み替え目的です。高齢者向け優良賃貸住宅